

漏れバケツという考え方

■イギリスで提唱された「漏れバケツ理論」

私たちは、経済活性化のために、日頃からいろいろな策を講じます。不況時には、景気対策として大量のお金を市場に供給し、お金の循環を生み出そうとします。しかしながら、いつも疑問に思うのは、果たしてそれは持続的なものになっているのかということなのです。

今回は、この疑問に対する一つの解として、「漏れバケツ理論」についてお話をしたいと思います。

内容は極めて単純です。「地域内にどんなにお金を流し込んでも、そのお金が簡単に外に漏れ出ていけばその地域は穴の開いたバケツと同じである」というものです。バケツの穴は塞がなければなりません。

バケツの穴を塞ぐ一番の方法は、入ってきたお金を長く地域内で循環・滞留させること、つまり「地域内乗数効果（地域内でお金を回すことで得られる効果）」を存分に発揮させることです。

具体例で見えてみましょう。

市外のある人が市内のA店で1万円を使ったとします。次に、A店の人がその1万円の80%、8千円を地元のB店で使ったとします。次に、

そのB店の人が地元のC店で8千円の80%、6千4百円を使ったとします。このようにそれぞれが80%ずつ地元で循環・滞留させたとします。最後にそれらを1万円+8千円+6千4百円：といったように合計します。すると最初の1万円は最終的に約5万円の効果となるのです。ちなみに、同じ方法で20%ずつを市内で使った場合の合計は約1万2千5百円にしかなりません。

このように、市内に入ってきたお金を地元で上手に循環・滞留させていく仕組みがあれば地域にお金を流し込んだことによる効果は大きくなるのです。

■地元で消費することの意味

多くの人が実感しやすいように1万円という金額で計算しましたが、これが億単位の事業だと、仮に平均50%で地元を循環させていけば、1億円は2億円の、10億円は20億円の波及効果をもたらすことになります。

これまでも行政は地元業者の保護・育成の観点から地元を大事にしてきました。であるならば、その効果の波及具合をもっとPRしなければなりません。パフォーマンスでは

なく、市民の理解を得るためにです。

たとえば、地域商品券の活用についても同様です。私は、報償等で支出されるものに対しては、これに地域商品券を活用して、地域内でお金の循環・滞留を生むべきだと思っています。実際、祝金などについては現金を地域商品券に替えさせていただきます。受け取る皆さんに不便さを与えてしまうとは思いましたが、それでもなお、政策の意図をきちんと説明すればきっと多くの皆さんに理解してもらえるものと信じ、地域にとつて経済効果の高い方を選んでわけです。

私は、地元の商工業者を社会資源の一つと捉えていますし、市民生活にとつて不可欠な存在だと思っています。「地元の産業を守ることは地域を守ること」に他ならないのです。



にかほ市長
市川雄次

